

開催概要・参加方法について

フォーラム参加者

- ▶ 日本参加青年 約40名
- ▶ 外国参加青年 27名

※ 外国参加青年については、2018年度地域課題対応人材育成事業「地域コリーダープログラム」で招へいされるフィンランド、ドイツ、ニュージーランドから各国9名ずつの参加を予定しています。

会場・宿泊先

国立オリンピック記念青少年総合センター

東京都渋谷区代々木神園町3-1

対象・参加条件

- ▶ 23歳から概ね45歳までの方
 - ▶ 全日程に参加可能な方
 - ▶ 以下のいずれかに当てはまる方
- (1) 日本を活動基盤とする非営利団体（高齢者・障害者・青少年分野）で3年以上の活動歴のある方（職業・ボランティアの別を問いません）
 - (2) 上記非営利団体と関連がある活動もしくは仕事をされている方

※ このフォーラムでは、特定非営利活動促進法に基づく特定非営利活動法人(NPO)に限らず、社団法人や財団法人、学校法人、医療法人、社会福祉法人などの公益団体、社会貢献活動を行う営利を目的としない任意のボランティア団体などすべてを対象としています。

※ 英語力は問いません。基本言語は日本語とし、全プログラムに英語通訳がつかます。

参加費

10,000円（期間中の食費・宿泊費を含みます）

※ ボランティア保険に加入します（保険料は主催者が負担します）。

※ 開催会場までの往復交通費は自己負担となります。

※ 参加費の支払い方法については、結果通知とともにお知らせいたします。

応募方法

下記URLまたは右のQRコードにて募集要項と応募フォームをご確認ください。

<http://www.centerye.org/npomf2019/>

※ 郵送による応募をご希望の方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。



応募〆切

2019年1月7日(月) 午前10時

※ 応募の結果は、2019年1月9日(水)までに原則Eメールにてお知らせいたします。

問い合わせ先（実施団体）

一般財団法人
青少年国際交流推進センター

東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階
HP : <http://www.centerye.org>
MAIL : core@centerye.org TEL : 03-3249-0767



日本参加青年募集！

NPOマネジメントフォーラム2019

高齢者・障害者・青少年分野の若手リーダーが、国境を越えて集う5日間。

2019/2/14.Thu ~ 2/18.Mon



【主催】内閣府

NPOマネジメントフォーラムとは

日本と諸外国の高齢者・障害者・青少年関連の非営利分野で活躍する若手リーダーが一堂に会し、各国の非営利分野事情や活動事例に基づく有益な情報を共有し合う、5日間の合宿型の国際フォーラムです。事例共有等に基づく意見交換を行い、団体運営に関する考え方や視点を共有し、対話を通じて実践的能力を向上することで、共生社会の実現に向け、各地域での社会活動の中心的な担い手となることを目指します。今回は、日本とフィンランド、ドイツ、ニュージーランドから約70名が参加します。

本フォーラムは、2018年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」の一貫として実施しています。

地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」とは

多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し支えあう「共生社会」を地域において築いていくためには、住民や非営利団体、行政機関等による取組の充実が必要不可欠です。こうした認識のもと、2018年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」では、高齢者・障害者・青少年関連の取組に携わる日本青年が先進事例のある外国を訪問する「派遣プログラム」と、同様の課題解決に取り組む外国青年の「招へいプログラム」を実施しています。組織で活動する青年同士の交流を促し、各分野の課題対応に関する必要な知識とともに、団体運営、関係機関等との連携や人的ネットワーク形成に必要な実務的能力の向上を目指しています。



▲ 2017年度の招へいプログラムにてオーストラリア、ドイツ、ニュージーランドからの外国参加青年

派遣プログラムと招へいプログラムは、分野別に以下のテーマに基づいて実施しています。

高齢者分野

高齢者の自立支援に必要な連携



▲ 2018年度ドイツ派遣団（高齢者分野）労働福祉協会（AWO）の高齢者施設を訪問

障害者分野

地域における障害者の社会参画の更なる拡大



▲ 2018年度フィンランド派遣団（障害者分野）インクルーシブ教育を実践する「タイヴァラフティ学校」を訪問

青少年分野

子ども・若者の育成支援に関わる人材の養成



▲ 2018年度ニュージーランド派遣団（青少年分野）青少年のヘルスサポートを提供する団体「パイブ」を訪問

5日間のスケジュール

※ スケジュールは変更する可能性があります

2/14 (木)	2/15 (金)	2/16 (土)	2/17 (日)	2/18 (月)
18:00～	AM	AM～PM	AM	AM
PM	PM	夜	夜	PM～夜
夜				～14:45 解散予定
日本参加青年研修 日本の非営利セクターに関する講義やディスカッション演習を通じて、効果的なディスカッションに向けて日本人同士の顔合わせを行います。	開会式 オリエンテーション 午前中に開会式とオリエンテーションを終え、都内近郊の団体を二箇所訪問します。実際の現場の取組に触れることで、各トピックに関する日本の非営利団体の現状や活動について理解を深めます。	課題別視察 課題別視察について振り返るとともに、関心のあるトピックに分かれてディスカッションを行います。	ディスカッション 課題別視察について振り返るとともに、関心のあるトピックに分かれてディスカッションを行います。	全体会 ディスカッション 全体会では、各国の非営利セクター事情に関する発表とテーマに関する意見交換を行います。
			文化交流会 各国のパフォーマンスやブース展示を通じてお互いの文化について伝え合うことで、ディスカッション内容の背景理解に活かします。	分野別交流会 高齢者・障害者・青少年関連の分野別に参加者が集まり、各分野の情報共有を行います。
			ディスカッション 成果発表準備 最終ディスカッションを終えたら、各トピック別に成果発表会に向けた準備とディスカッション成果の報告をまとめます。	成果発表会 評価会 各トピックのディスカッション成果の発表と内閣府による講評を行い、評価会ではプログラムを振り返ります。
				歓送屋敷会・修了式 日本参加青年の修了式を行います。日本参加青年は全行程を終えて解散し、外国参加青年は続く国内プログラムのため、日本の地方都市を訪問します。

テーマ「情報化社会と非営利団体」

“共生社会の実現において、非営利団体は情報や通信技術とどう向き合っていくか”

今回のフォーラムでは、私たちが暮らす世の中を情報化という切り口で見つめなおし、非営利団体はどのようにして「誰一人取り残さない」社会の実現に取り組むことができるのか、重要となる考え方や視点を共有します。そして互助に基づく共生社会の実現に向けて、情報化社会の強みや潜在的リスクを認識するとともに、その恩恵を活用した事例共有を交えながら本質的な考え方を交わす意見交換を目指します。参加者は、テーマに基づいた以下の3つのトピックから関心のあるトピックを選び参加します。

TOPIC.1

適切な個人情報の活用と保護

本来、サービスの効果・効率性向上のために収集される個人情報ですが、保護の概念が拡大し、支援現場における連携の足かせとなっている可能性があります。共生社会における個人情報とは何か、互助を促すためにはどのように情報が共有・活用されるべきか、議論します。

TOPIC.2

AI時代に向けた組織運営の新アプローチ

人工知能(AI)の進歩により、非営利団体の活動においても業務の効率化、生産性やサービスの質の向上が期待できると同時に「人間にしかできないことは何か？」等、新たな課題解決への取組も必要です。AIが非営利団体の組織運営により良い影響を与えるための方策について、各ステークホルダーによる多様な視点から検討し、議論します。

TOPIC.3

情報化社会における渉外・広報の在り方

SNS等の普及により団体の活動理念を発信しやすい環境が構築されている一方で、情報サービスの利用者は自らの関心に基づいた情報収集を行うなど、組織の渉外・広報はより複雑化しています。情報化社会において、どのように人と繋がり他者を巻き込むか、渉外・広報の在り方について議論します。

これまでの参加者の声



山口 賢

NPOマネジメントフォーラム2018 日本参加青年
医療法人社団民生会愛里病院、
千住未来会SeArch所属(当時)

このフォーラムでは、より本質的なディスカッションやワークショップを行えます。その中で、海外の方たちと繰り返しディスカッションを行い、互いに文化や慣習、価値観の違いを楽しみ、認め合い、一つの課題に対して成果物を作り上げていく。プロのファシリテーターがディスカッションの質を磨き、参加者への愛や情熱を持ったモデレーターが暖かくフォローしてくれます。参加者同士が協力しながら成果物を生み出していこうと懸命に向き合え、高め合える場所です。このフォーラム自体が、理想的な共生社会の縮図であったと思います。



エレン・ヘルツォーク

2016年度「地域コアリーダープログラム」
ドイツ団 団長
アルバイター・キント所属(当時)

多文化グループで活動することから、コミュニケーションの取り方、議論の内容について共通認識や用語の定義を明確にすることの重要性など、多くを学びました。ディスカッションの他に図を描くなどの視覚的なコミュニケーションに取り組んだことも、自らのファシリテーションスキルの向上に繋がりが、議論の目的や結果のみならず、プロセスを実感できる経験となりました。多国籍グループでリーダーシップをとるという役割は、私自身のスキルアップにつながる機会となったことに心から感謝しています。